

2010年3月期 中間決算について

2009年11月10日
成田国際空港株式会社

1 航空取扱量について

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)			
	2008年度 実績 A	2009年度 実績 B	増 減		2008年度 実績 C	2009年度 見通し D	増 減	
			数 量 B-A	% B/Ax100			数 量 D-C	% D/Cx100
航空機発着回数(万回)	9.7	9.4	△0.3	96.8	19.1	18.5	△0.6	96.6
航空旅客数(万人)	1,695	1,618	△77	95.4	3,265	3,219	△46	98.6
航空貨物量(万トン)	106	92	△14	86.9	188	187	△1	99.2
給油量(万kl)	269	241	△28	89.5	521	459	△62	88.1

(1) 2009年度中間期の実績

- 航空機発着回数は、航空会社の減便等により前年同期比で減少
- 航空旅客数は、景気の低迷および5月・6月の新型インフルエンザの流行により減少
- 航空貨物量は、国内外需要の低迷および円高による輸出の減少等により減少
- 給油量は、発着回数の減少や就航機材の小型化等により減少

(2) 2009年度通期の見通し

- 航空機発着回数は、航空会社の減便等が継続することにより前期比で減少
- 航空旅客数は、景気の不透明感に加え新型インフルエンザの再流行も懸念されることから前期比で減少
- 航空貨物量は、上半期の大幅な落ち込みからやや持ち直すものの前期比で減少
- 給油量は、発着回数の減少や就航機材の小型化等が継続すると見込まれることから前期比で減少

2 連結決算について

(単位：億円)

区 分	中間期(4月1日～9月30日)				通期(4月1日～3月31日)			
	2008年度 実績 A	2009年度 実績 B	増 減		2008年度 実績 C	2009年度 見通し D	増 減	
			金 額 B-A	% B/Ax100			金 額 D-C	% D/Cx100
営業収益	981	895	△85	91.3	1,894	1,751	△143	92.4
営業利益	160	115	△44	72.0	234	156	△78	66.5
経常利益	115	71	△43	62.0	141	67	△74	47.3
税金等調整前純利益	96	62	△34	64.3	107	56	△51	52.2
中間(当期)純利益	55	35	△19	64.0	59	30	△29	50.4

(連結の範囲) 連結子会社 21社、持分法適用関連会社 1社 (前年度末と同数)

(1) 経営成績の概要

- ① 営業収益は895億円(前年同期比85億円の減)、営業利益は115億円(同44億円の減)、経常利益は71億円(同43億円の減)、税金等調整前中間純利益は62億円(同34億円の減)、中間純利益は35億円(同19億円の減)の減収減益
 - 営業収益については、空港運営事業では、航空需要の落ち込みに伴う航空会社の減便や、就航機材の小型化等の影響で、空港使用料収入及び給油施設使用料収入が減収。また、新型インフルエンザの世界的な流

行の影響等で日本人・外国人旅客数ともに大幅に減少したことにより旅客サービス施設使用料収入も減収。リテール事業では、航空旅客数の減少や、景気の悪化による消費意欲の低下に伴い、テナントからの構内営業料収入、子会社の物販・飲食収入ともに減収。施設貸付事業では、前年度中に貨物上屋の返還があったことや、航空旅客数の減少に伴う駐車場利用者数の減少等により、土地建物等貸付料収入が減少した。この結果、前年同期比 85 億円の減収となった。

- 設備更新工事に伴う除却費の増加や防音工事助成金の増加等があったものの、リテール子会社の売上減少に伴う商品仕入原価の減少のほか、警備費や修繕費をはじめとする経費削減など営業費用の削減に努めた結果、営業利益は前年同期比 44 億円の減益にとどまった。
- 特別損失の固定資産除却損が減少したこと等により、税金等調整前中間純利益が前年同期比 34 億円の減益にとどまった結果、中間純利益は前年同期比 19 億円の減益となった。

(2) 財政状態の概要

- 資産では、B滑走路北伸関連工事や成田新高速鉄道整備工事等の設備投資を実施した結果、資産合計は前期末より 108 億円増加の 1 兆 227 億円
- 負債では、社債の発行などを行った結果、負債合計は前期末より 88 億円増加の 7,970 億円
当中間期末の有利子長期債務残高は、前期末より 28 億円増加。平均金利は前期末より 0.02 ポイント下がり 1.55%
- 純資産合計は、前期末より 20 億円増加し、2,257 億円

(3) キャッシュ・フローの概要

フリーCFは、投資CFが営業CFを上回ったため△32 億円（前年同期比 49 億円の悪化）

- 営業CFは、法人税等の支払額の減少などがあったものの、営業収益の減少や成田新高速鉄道に係る負担金の支出などにより前年同期比△49 億円の+297 億円
- 投資CFは、B滑走路北伸関連工事、成田新高速鉄道整備工事等により前年同期と同額の△330 億円
- 財務CFは、社債の発行等により前年同期比+97 億円の+95 億円

(4) 通期の連結業績見通し

営業収益は 1,751 億円（前期比 143 億円の減）、営業利益は 156 億円（同 78 億円の減）、経常利益は 67 億円（同 74 億円の減）、税金等調整前当期純利益は 56 億円（同 51 億円の減）、当期純利益は 30 億円（同 29 億円の減）で減収減益

- 営業収益は、世界的な景気の低迷や、新型インフルエンザの再流行の影響で航空需要が落ち込み減収
- 営業利益は、引き続き委託関係費などの経費削減を図るものの、営業収益の減収により減益
- B滑走路北伸関連工事が終了することにより特別損失は減少するものの、営業収益の減収により税金等調整前当期純利益及び当期純利益は減益
- また、2009 年 5 月 15 日発表の業績予想からは、営業収益は 30 億円の下修正となりますが、営業利益は 7 億円、経常利益は 14 億円、税金等調整前当期純利益は 22 億円、当期純利益は 13 億円、それぞれ上方修正しております。

※ なお、実際の業績は、経済情勢等の様々な要因により大きく異なる可能性があります。